

# 日本風景街道熊野の活動の継続に向けた 課題と展望

坂本 健斗<sup>1</sup>

<sup>1</sup>近畿地方整備局 紀南河川国道事務所 工務第二課 (〒646-0003和歌山県田辺市中万呂142)

日本風景街道熊野は、熊野古道を始めとした風景、歴史、自然など地域の魅力を道でつなぎ、地域と行政が連携した地域振興や観光振興を目指して活動を行ってきた。日本風景街道の登録から約18年が経過し、所属する団体の高齢化や団体の解散、コロナ禍等により活動が停滞・衰退しているなか、日本風景街道熊野が抱える現状の課題を整理し、活動を継続していくための計画を立案するものである。

キーワード 観光、道路利用促進、住民協力

## 1. はじめに

日本風景街道は、郷土愛を育み、日本列島の魅力・美しさを発見、創出するとともに、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創成する運動を促し、地域活性化、観光振興に寄与し、国土文化の再興の一助となることを目的に平成19年に発足された。

日本風景街道熊野は、平成18年2月から日本風景街道の前身である「シーニックバイウェイ紀南」として活動を開始し、住民が主体となって、風景・歴史・自然など地域の魅力を道でつなぎ、訪れる人と迎える地域の交流を通じて、美しい景観形成、観光振興、コミュニティ形成などの幅広い効果を目指すことを目的として、平成19年11月に日本風景街道に登録されたと同時に名称を「日本風景街道熊野」に改称した。日本風景街道熊野の所属団体（以下、「活動団体」という。）は、令和7年7月現在で地域のNPO団体等24団体が所属しており、今日まで活動を継続している。しかし、活動に参加する団体が固定化されているうえ、活動団体数は年々減少し、活動参加者の高齢化が目立ってきており、活動への活力が低下してきている。

本稿では、日本風景街道熊野が抱える現状の課題を整理し、日本風景街道熊野の活動を継続していくための計画を立案するものである。

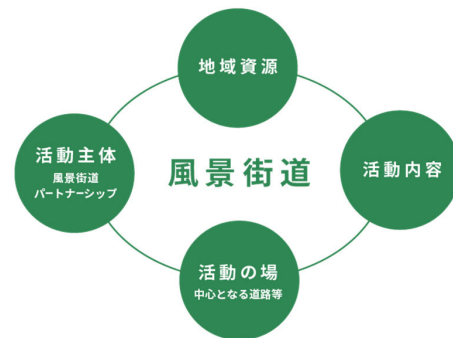


図-1 風景街道を構成する要素

## 2. 日本風景街道熊野の体制

日本風景街道熊野の活動エリアは、和歌山県の南部地域が対象で、熊野古道でいう中辺路ルート（山側）や大辺路ルート（海側）を含み広範囲である。所属する活動団体も広範囲にあり、地域間の連携が難しいところも特徴として挙げられる。

日本風景街道熊野の体制は、総会、推進協議会で構成されており、役員に会長、副会長、会計、活動推進委員の他、事務局（紀南河川国道事務所）で組織されている。推進協議会を年数回実施し、年間活動計画の立案や活動の実施を行っているほか、総会で年間活動計画の承認、活動の承認を行っている。活動資金は、主に年会費として1,000円を徴収し、各活動の実施にかかる際の費用などに充当している。

令和6年度に体制を見直し、令和5年度以前では推進協議会の下に活動団体が「活動部会」という「歴史」「観光」「環境・景観」の3部門に分かれ、活動団体の強みを活かした活動を立案し実施してきたが、活動団体

数の減少及び活動に参加する団体の固定化により、活動部会そのものが機能しなくなり活動部会を廃止した。活動部会に代わり活動団体の代表者から「活動推進委員」を選出し、活動計画の企画立案や活動の運営を行うこととした(図-2)。

さらに、周辺地方自治体との連携を強化することを目的として、令和6年度から日本風景街道熊野の周辺自治体(11市町村)のうちの2市町村を輪番制で「事務局協力団体」として選定し、活動の参加及び事務局運営の補助を担っている。令和6年度は田辺市と那智勝浦町を、令和7年度は上富田町と新宮市を選定した。

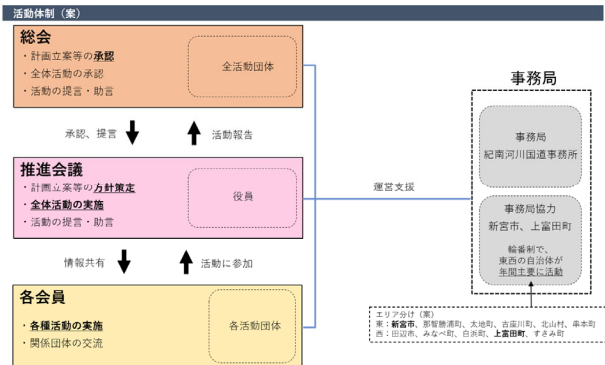


図-2 日本風景街道熊野の体制図



図-4 江田海岸清掃活動 集合写真



図-5 「熊野古道の魅力再発見ツアー」

### 3. これまでの日本風景街道熊野の活動

日本風景街道熊野の主な活動は、地域の清掃や植栽整備などの景観保全活動のほか、独自で作成した紀南地域の景勝地などを掲載した「よりみちマップ」の配布やSNSを活用した情報発信を実施してきた。活動団体の減少、活動に参加する団体の固定化が進んでいるなか、令和6年度は「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界文化遺産登録20周年を迎えたことを踏まえ、熊野古道に特化した活動を企画し、熊野古道大辺路ルート周辺の江田海岸や田原湿地の清掃活動や活動団体間の交流を目的とした「熊野古道の魅力再発見ツアー」など精力的に活動を行った。活動団体や自治体の多くの方に参加いただくことができたが、普段参加していない活動団体を参加させることはできなかった。



図-6 マラソン大会における広報活動(よりみちマップの配布)

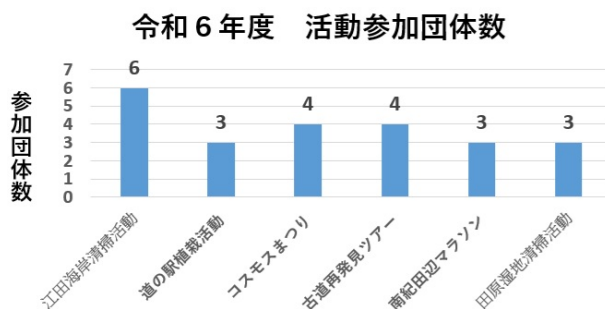


図-3 令和6年度 活動参加団体数

### 4. 持続的な活動を進める上での課題

日本風景街道熊野の設立から18年が経過した今日、設立当初で74団体あった団体数も、平成22年の88団体をピークに、令和7年7月現在では24団体にまで減少し、活動団体数の減少に歯止めがかかっていない(図-7)。活動団体の減少は、日本風景街道熊野のみに限らず、日本風景街道全体の課題となっている。さらに、活動団体メンバーの高齢化により、活動団体そのものの存続が危ぶまれることや、日本風景街道そのものの認知度が低いことなどが全国規模で課題となっている。

日本風景街道熊野 所属団体数の推移

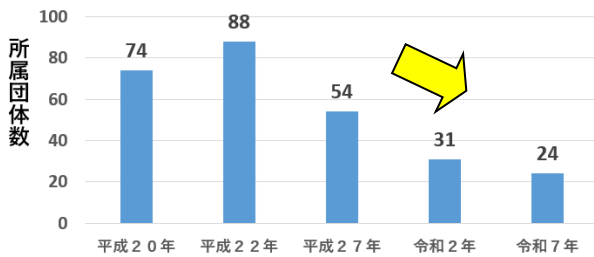


図-7 日本風景街道熊野 所属団体数の推移

これらの実態を踏まえ、日本風景街道熊野では以前より抱えている課題を把握し、改善策を検討することを目的とし、全活動団体を対象にアンケート調査を実施した。このアンケート調査は、10年前（平成27年）に実施したアンケート調査の内容を踏襲しながらさらに質問を追加し、普段活動に参加できていない活動団体からの声を聞き、今後の活動計画に反映させることが狙いである。

アンケート調査の実施方法は、全活動団体に調査票を郵送配布し、回答後事務局へ返送していただく方法のほか、調査票に記載のQRコードを読み取り、WEBサイトより回答していただく方法を新たに導入した。これは、若年者から高齢者の方まで幅広く回答していただけるように、回答手続きの簡素化を図ったものである。

今回新たに活動団体メンバーの平均年齢を聞いたところ、56.5歳であった。普段から活動に参加していただいている会員の平均年齢は70歳を超えており、活動団体に比較的若い世代の会員が所属していることがわかった。

10年前のアンケート調査と同様に、貴団体について悩みや課題があるかの間に対し悩みや課題があると答えた団体が約7割に上り、その内訳も担い手不足や資金不足、会員の高齢化といった10年前と同じ課題を継続して抱えていることがわかった（図-8）。また、それらの課題解決のために取り組んでいることはあるかの間に対し、チラシなどによる会員募集の案内や団体独自のグッズ販売・団体のPR活動など、悩みや課題を解決するために取り組んでいることがあるとの回答があった。

「抱えている」と答えた場合の具体的にどんな課題や悩みか？

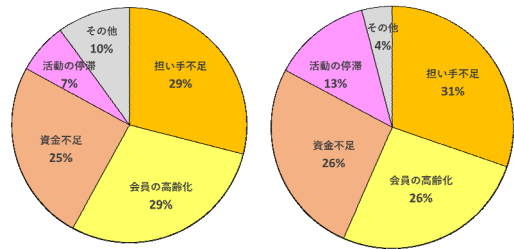


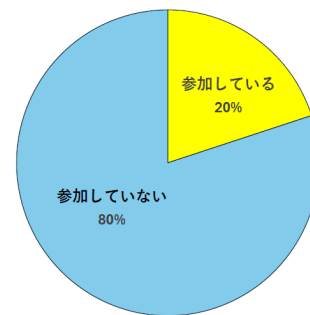
図-8 アンケート結果（1）

左：平成27年（前回実施分）

右：令和7年（今回実施分）

日本風景街道熊野の活動に普段から参加しているかの際に、参加していないと答えた活動団体は8割に上った。参加できていない理由の問に対し、都合が合わないと答えた活動団体も約8割に上った（図-9）。背景として会員の就業や活動団体自身の活動があることが考えられる。

日本風景街道熊野の活動に普段より参加していますか？



「参加していない」と答えた場合、その理由

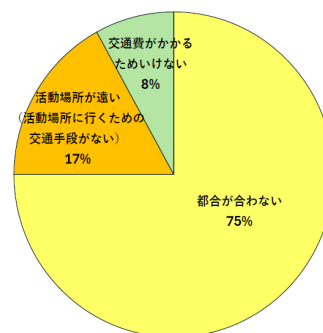
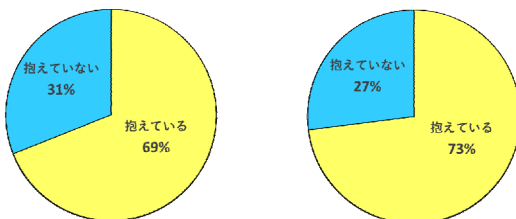
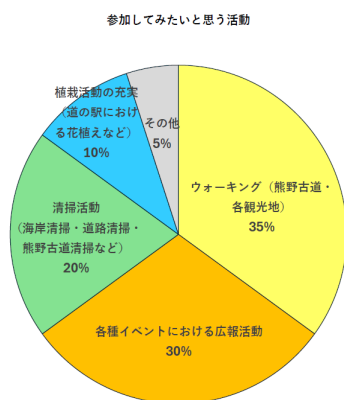


図-9 アンケート結果（2）（令和7年）

そこで、日本風景街道熊野の活動について、どんな活動であれば参加してみたいかの間に対し、熊野古道や各観光地におけるウォーキングが最も多く、次に各イベントにおいての広報活動が多い回答結果となった（図-10）。

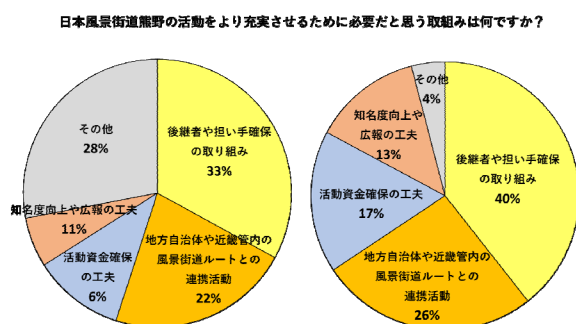
貴団体について、課題や悩みを抱えていますか？





図－１０ アンケート結果（３）（令和７年）

日本風景街道熊野の活動をより充実させるために必要な取り組みについての問では、担い手確保への取り組みが最も多く、次いで地方自治体や他風景街道ルートとの交流や連携が多いという結果は、１０年前と同様の傾向を示す結果であった（図－１１）。



図－１１ アンケート結果（４）

左：平成２７年（前回実施分）

右：令和７年（今回実施分）

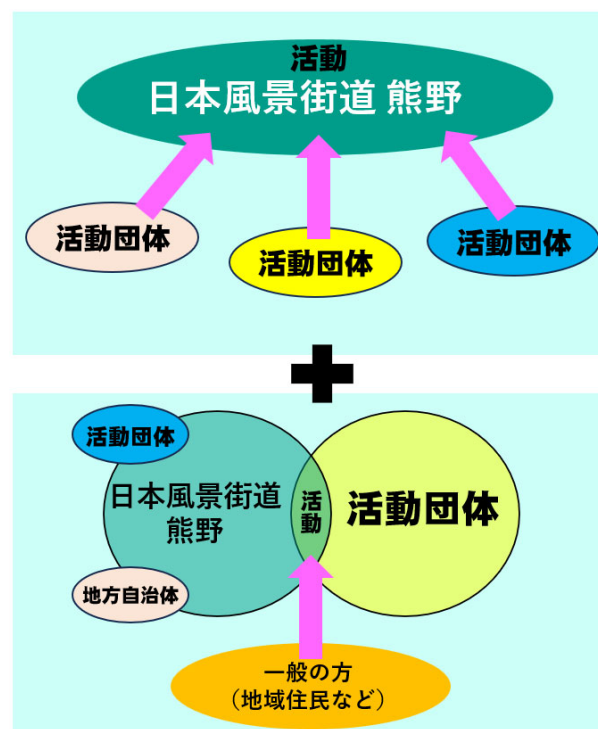
今回のアンケート調査結果から見る主な課題を整理すると、以下の３点が挙げられる。

- ①担い手不足（会員の減少）
- ②会員の高齢化
- ③活動資金不足

今回のアンケート調査結果より分かったことは、活動団体によっては比較的若い世代の会員も在籍していることや１０年前のアンケート調査と同様に課題が継続していること、活動団体が課題解決のための取組を実施していることがわかった。活動団体の現状を改善するため、日本風景街道熊野が支援を行う必要がある。

## 5. 課題に対する今後の展開・取組方針

前述のアンケート調査結果をふまえ、課題に対する今後の日本風景街道熊野の取組方針について考察する。これまで日本風景街道熊野の活動を活性化するにはどうすれば良いかや日本風景街道熊野の知名度向上に必要なことは何かに焦点を当てて活動を実施してきた。これまでの日本風景街道熊野独自の活動に加え、活動団体の活動を支援し、地域住民を巻き込んだ活動を行い、日本風景街道熊野及び活動団体の活性化や知名度向上を目指す（図－１２）。



図－１２ 今後の取組方針

以下に、各課題解決に向けた今後の取組を示す。

### ① 担い手不足の解決に向けた取組

これまで日本風景街道熊野の募集案内は、日本風景街道熊野のホームページや情報誌「よりみちマップ」に記載しているが、活動団体の増加には至っていない。今後は会員募集チラシの作成など積極的な募集を展開し、道の駅や周辺自治体と連携し、自治体の窓口等に配架することを計画している。また、活動団体単位での募集に加え、個人単位で会員を募集することを計画している。

### ② 会員の高齢化の解決に向けた取組

若年者世代の方に、活動団体やその活動内容について知っていただくことや活動に参加してもらうことを目的とし、活動の参加者を地域住民だけではなくボランティアサークルなどに所属している学生のほか、学校教育の一環として児童や生徒に参加していただく活動を実施す

ることや休日や平日など幅広く活動日を設定するなど、若年者世代が参加しやすい活動を実施する。また、活動報告などの広報について、インスタグラムだけではなく、YouTubeなどの動画サイトにも併せて投稿することで、若年者世代に広く広報を行う。

### ③活動資金不足の課題解決に向けた取組

活動資金の確保に向けて、現在、年会費の増額を検討しているところであるが、各会員より賛否両論の意見が出ているため、近畿建設協会公益事業である「地域づくり・街づくり支援事業」の支援金などを活用して、活動の拡大を図る。その他にも、活動に合った様々な助成・支援金を探し、積極的に申請を行っていく。

課題解決に向けた具体的な取組として、今年度では以下のような活動を計画している。

### ●熊野古道大辺路刈り開き体験

日 時（仮）：令和7年10月頃

場 所：和歌山県東牟婁郡串本町田子

協 賛：熊野古道大辺路刈り開き隊

日本風景街道熊野の所属している活動団体のうちのひとつに、「熊野古道大辺路刈り開き隊（以下、「刈り開き隊」という。）」という活動団体がある。刈り開き隊は、地域住民とともに熊野古道の道普請活動（以下、「刈り開き」という。）を定期的に行っていることから知名度は高いものの、他の活動団体と同様に会員の高齢化や担い手不足といった課題を抱えている。そこで、上記活動の参加者について、活動団体だけではなく一般の方に広く募集し、実際に自らの手で刈り開きを行うことにより、刈り開きの面白さに加え、熊野古道に愛着を持ってもらうことで再度刈り開きの活動へ参加したいと感じてもらうことを目指す。さらに、活動報告は複数のSNSサイトにて広報を行うことで、日本風景街道熊野や刈り開き隊についても広く知ってもらうことを目指す。

今後は、この刈り開き体験だけではなく、花植え体験や熊野古道のガイド体験など、各活動団体の強みを生かした活動を実施し、各活動団体を支援していくものとする。また、前述のアンケート調査結果より、熊野古道のウォーキング活動や各種イベントにおける広報活動など、参加してみたいと答えた割合が多かった活動も併せて実施していく。

## 6. まとめ

日本風景街道熊野の今後のあるべき姿について、10年ぶりにアンケート調査を実施したところ、10年前に抱えていた悩みや課題を継続して抱えていることがわかり、活動の参加団体についても固定化されているなか、それらの課題の解決に向けて、地域住民などの一般の方を巻き込んだ体験型の活動を実施しながら、各活動団体の強みを生かした活動を日本風景街道熊野が支援していく取組方針のもと、今後も活動を継続していく。